

## 平成 28 年度 西崎特別支援学校 学校評価 (教職員用) 分析・考察

昨年度に引き続き、今年度も 100% の回答率になっていることは、職員が本校の教育や学校運営等に関して意識をもっていることの表れであると考えます。

### 1 学年間・学部間の連携及び引き継ぎの工夫改善が引き続き必要

- ① 昨年度の指摘を受け、取り組んだ引継ぎ時の共通理解のための工夫 (ビデオや写真などの視覚的なものを活用等) については、それぞれの職員がイメージしやすいように行い、改善されている。
- ② 個別目標について共通理解や個別の支援計画や個別の指導計画等の作成と引き継ぎについて、隣学年や学部内では児童生徒の個別目標等の共通理解を図りやすいが、学部を進学する際の連携に関してはまだ十分とは言えないようである。担当児に関してのイメージの共有化を図れるよう、引き継ぎ資料の具体性 (具体的な内容) に目を向けた検討・点検が必要。各教科や学部及び分掌部との情報の共有・共通化を図るため、場の設定や方法の工夫をさらに進めていく必要がある。

### 2 指導及び支援に関する教職員の資質の向上を図るための工夫改善が必要

- ① 子どもの実態に即した個別の目標をどこまで具体的に設定しているのか、職員の意識について再確認が必要である。各授業においての目的・目標の明示や意識化、子どもの学びについて、さらに活動内容、評価までをイメージした取組を今年度 2 学期から職員に提案している。指導体制に関しては、まだ共通理解が必要との反省から、教科・領域別の指導や各教科等を合わせた指導に関して、新学習指導要領や特別支援教育に関する現状、県の施策についての研修会や学習会など行い、十分な理解と専門性の向上に努める。
- ② 同僚性を重視し、学部及び学年、教科会などで職員が相談しやすい体制づくりや雰囲気づくりを引続き行う。教育相談に関しては、校内支援係が学部職朝等で定期的に教育相談記録票の提出を呼びかけることで、職員の困りを把握することができつつあるように思われる。しかしセンター的機能についてはその充実に努めているが、情報共有の弱さや発信内容に課題があると思われる。教育支援部の取組を職員に周知する機会を設けるとともに、その中で相談事例や対応の紹介等をし、職員が興味を持つような工夫が必要である。
- ③ 様々な場面で教師や児童生徒自身が、学習の理解や指導・支援を促すためのツールとして、i-Pad やパソコン (パワーポイント) やテレビ、プロジェクター等の拡大表示活用している。しかし、ICT = i-Pad だと思っている人が多いようで、まだ、苦手意識が根強い感じがある。

職朝や学部会等で以前行っていたように、児童生徒に還元できる学習ソフトやアプリ等の資料や情報等の提供、ICT 機器に関する校内研修会や学習会など行い、それぞれが活用できるように工夫する必要がある。さらに、ICT 機器の環境整備を含め、ソフトやアプリのマニュアル作成や機器等の整理、職員への周知等を行い、専門性の更なる向上を図る。今後は社会参加の部分でのキャリア発達を促す視点で ICT 活用に取り組めれば、よい活用は進むと考える。

## 様式1： I 自己評価（教職員全体）

### 3 キャリア教育の視点からの取組について

- ① 項目②④「幼児児童生徒一人一人が主体的に学ぶ意欲や態度の育成、学習できる場の工夫が行われている。」、項目②⑤「個別の教育支援計画の目標を子どもと共有し、活用している。」の文言を一部を変え、今年度2学期から職員に提案している取組に関して評価を試みた。②④に関しては、97%の職員が、ほぼ達成できたと評価しているが、②⑤に関しては、学部間での開きがあった。幼児児童生徒の実態や特性によっては「子どもと共有」「活用」することが難しいと感じている結果であると考えられる。この項目の評価の目的に沿った評価項目の文言の検討が必要である。
- ② 昨年度、「キャリア教育の視点を踏まえた西崎独自のキャリアプランニング・マトリック表」を作成し、校内研修等を通して活用に関して職員へ周知したことで、キャリア教育の視点の取組への共通理解を図ることの成果が数値に現れていると考える。

### 4 安全教育 及び 家庭・地域社会との連携

- ① 行事等においては交流学习、踊りの夕べ、防災教育(避難訓練)での連携が進められている。学部ごとに授業において地域の商店等を活用しての取組はあるが、地域社会との連携の場があまり図れていないのが現状である。地域資源の活用と自治会等との連携を図ることが求められる。
- ② 項目②⑨「通学路等、学校内外の危険箇所を把握して、安全指導に努めている。」に関しても、通学路での安全確保や安全指導(自力通学指導、スクールバス安全運行等)を行いながら、保護者・職員が連携して、地域にも働きかける必要があるだろう。

### 5 学校運営・その他

- ① 項目⑥⑩「学校内はきちんと清掃されている。」の項目で約20%の職員が低い評価を出している。校舎の老朽化に伴う劣化も見られるが、一人一人の美化意識を高めることや各学部の清掃分担区の再確認、隙間時間を利用した清掃活動を児童生徒に意識づけさせる等、教職員自身が手本となる行動や意識的な働きかけも必要である。